

ホーム名：グループホームジョイフル小路					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく普通の暮らし」を理念とし、職員全員がその理念の下、地域に密着したサービスを実践している。	リビングに掲げられた簡潔で大きな文字「その人らしく普通の暮らし」は常に職員の目にとまり日々認識を新たにしている。管理者と職員は入居者一人ひとりの個性にあった支援を志している。	事業所を訪れる訪問者にも見えるように玄関にも「理念」を掲げられたい。事業所の福祉支援のあり方についてより理解してもらいやすいと思われる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の夜警やリフレ会に参加し地域の一員として日常的に交流している。	事業所は自治会に加入し管理者は小路東地区の防災支援委員会の委員も務めている。地元からのボランティア活動の受け入れには日本人による韓国舞踊、フラダンス、ひよっこ踊りなどもあり、事業所と地域の交流は活発である。	事業所の地域に対する積極的な関わりは当ホームの理解を得る役割を満たすものであり、今まで以上にこの方針を堅持されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ネットワークでの行事や町会の行事には必ず参加し地域に溶け込む事で活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や要望・助言を地域の方や家族様より頂きよりよいホームになるように活かしている。	運営推進会議には事業所からはもとより、包括支援センター、町会長、家族代表、等が参している。議題は入居者に対するサービスが主で、新しい催物、ヒヤリハットの報告、家族の要望など多岐にわたり幅広く話し合われている。	会議の参加者の充実には、目標達成計画にもあり、その実現を目指されている。この課題も常に更なるものとして取り組んでもらいたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村・ケースワーカーとの連携にて事業所の実情・サービスなどを伝え協力関係を築くように務めている。	事業所だけでは解決しにくい問題点や生活保護を受けている入居者の支援についての助言を求めたりするなど市町村への働き掛けは積極的である。市の協力のおかげで、声あがる事のおおかった入居者も今は職員の支援を心よく受け入れるようになった事例もある。	常に市町村への積極的な働き掛けをして関係維持に努められ、市町村の持っている潜在的な指導力を事業所の為に生かして行くように期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事は重要事項にも記載している。職員会議などでも、より理解を深めるために、何度も研修などで確認し合っている。日中は玄関入り口のドアを施錠している。	管理者は生野区社協の主催する拘束禁止の研修に参加している。このホームにはミトン手袋やつなぎ服ではなく入居者は職員の見守りのもとで安心して生活されている。玄関は施錠はされているが、かつての経験による徘徊の防止の為にあり入居者の身の安全を守る為である。	管理者や職員は、入居者一人ひとりの見守りこそが身体拘束防止に繋がる事の重要性をよく認識されている。こういった見守り重視のあり方はこれからも恒久的に職員同士で共有され日々実践、維持されて頂きたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういった行為が虐待になるかを研修、会議でも職員に周知し、日々のケアに努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用した入居者様を通してスタッフもより深く理解し、今後活かしていきたい。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に入居者様・家族様に契約書・重要事項を全文、読み上げ、疑問点の有無を何度も確かめ理解してもらった上で契約となる。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様の普段なにげない会話が意見・要望のサインだと察知それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族への直接の話し掛けなどを通じて要望、意見などを聞いたりしている。現在のところ意見箱の設置はあるものの利用はされていない。事業所の運営にあたっては常に家族の意見を考慮し反映に努めている。</p>	<p>家族や入居者の為のホームであるためには、職員達の家族への話しかけも重要であるが、会話では求められない提言もあると思われる意見箱への投書も促されたい。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月一度の会議には代表者も参加し皆の意見や提案を聞き、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員の意見や要望は月一回のスタッフ会議で提起されている。代表者は入居者の支援に直接携わっている職員の意見を運営充実化の為に反映させている。</p>	<p>職員の意見や提案は経験からくるものが多く、よりよい運営の参考になりやすい。今後とも、職員たちが意見を述べやすいような会議にして、より一層の運営充実化を図られたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は職員個々の勤務状況の中で、努力・実績などを考慮し、いろんな形で反映し、皆がやりがいが持てるように務めてくれている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のスキルアップのためいろんな研修を推進している。費用は全額、会社負担で勤務シフトも考慮してくれる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域包括支援センターが主催するGH連絡会や研修などに積極的に参加し、他グループホームとも連絡を取り合い情報の交換を行っている。</p>		

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の困った事、不安な事などを本人や家族から何度も聞き、本人の気持ちを受け止め、安心した生活の確保に務めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族の困っている事や不安な事。希望・要望などを話し合い、お互いの信頼関係を築いていくように務めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず何から支援するのが優先かを見極めながら「その時」必要に応じたサービス利用に務めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>その人にあったケアをこころがけている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とは利用者が生活していく中で大事な存在です。職員は利用者と家族の絆を大切にしながら支えあう関係が築けるように務めています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>施設行事の案内状や年賀状。地域行事などで馴染みの関係が途切れないように務めている。</p>	<p>職員の温かい日頃の支援と優しい話し掛けで入居者の殆どはここが自分の家と自覚されているが、家族や前の家に馴染みを感じる人もいる。家族の訪問などで関係の維持がなされ、一人ひとりの希望を可能な限り満たされるような努力がなされている。</p>	<p>身寄りのない入居者については職員の惜しめない支援をお願いしたい。また、新しく馴染みの人ができた時はその関係を維持継続されるよう支援をされたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、ソファ一・食事時の席の配置に気をつけお互い良い関係が保てるように務めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>相談や要望があれば出来る限りの協力支援は行う。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの主訴や生活暦を大切に「その人らしい」暮らしが継続できるように務めている。	入居者一人ひとりに話し掛けをして、その思いや希望を見出すようにしている。職員は互いに意見を交換しあい入居者が満足してもらえるような支援をしている。	入居者は何を求めているか、また、何が厭なのかを正確に把握する為に職員同士で認識をしたことを記録・共有されれば更によりよい福祉としてのスキルアップに繋がると思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前の情報や本人の生活暦を踏まえ馴染みの生活が長く続くように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、心身状態など個人ケースに書き入れ、カンファレンスなどで情報を共有し把握する事に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りで変化の有無や情報を伝達し、それに対しアイデアなどがあれば会議にかけ、皆の意見を聞きながら介護計画に反映させている。	介護計画を作成するにあたってはスタッフ一同、ケアマネ、時には家族も含めて日頃から感じた事や意見なども勘案される。長期計画は6ヵ月、短期は3ヵ月を目標としているが状況によってはその都度見直しがされている。	基本方針としての介護計画は重要であるが、場合によっては入居者一人ひとりの健康状態などの変化に順応した支援をしていると聞く。この姿勢をこれからも続けられたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のその日その時の状況を個人ケースに細かく書き入れ職員全員が情報を共有し実践した上で介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに答えるようにしている。他のサービスなどは臨機応変に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの今までの暮らしを支えてきた地域資源の把握によって心身豊かな生活が楽しめる現状の生活と協働できるように支援していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族同意にて協力医で受診している。又、健康状態や心身の状態によって家族協力の元、適切な医療機関の受診を支援している。	希望があれば家族の同行でかかりつけ医の受診もある。協力医は月2回の往診があり現在は9名が受診している。毎週木曜日にはオーリーブ歯科の往診があり必要な入居者の治療に当たっている。	現在は全員が協力医の診察を受けているが、かかりつけ医を希望される入居者がいれば出来るだけの協力をお願いしたい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>いつも同じ看護師さんなので、利用者の健康状態を把握している。看護師と顔馴染みなので本人や職員も気軽に相談できる事が日常の健康管理に役立っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>顔なじみの看護師さんが入院時に何かと面倒を見てくれる。又、訪問看護時や職員面会時に情報を得ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の希望に出来るだけ添えるように話し合い確認し、見取りまで支援して行くように務めている。</p>	<p>事業所は入居の時点で十分な説明をしている。特に重度化については協力医の立ち会いのもとで説明がある。身寄りのない入居者も家族のある入居者もこの事業所に信頼を寄せられ十分に納得されて入居している。</p>	<p>常に事業所は家族との連絡に留意している。身寄りのない入居者にも、管理者や職員が今までと同じように最期のよき相談相手としての温かな支援をお願いしたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時や急変など、職員は初期対応がすみやかに行えるようにする。又、そのために訓練の場を設け実践力を身に付ける努力をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホームでは年2回の消火・避難訓練をしている。スプリンクラー・自動火災報知機も設置済</p>	<p>年に2回の消防避難訓練がなされている。消防署の立ち会い時には新たな指導を求めたりするので外部に避難し易く、近くの学校を避難場所としている。防火対策としては全室にスプリンクラーが設置されている。</p>	<p>現在は近隣との協力はあまり得られていないようであるが、それをこれからの課題として頂きたい。災害時の混乱もあり、消防職員にも分かるような避難チェックリストの作成もされたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く築きあげてきた生活暦の中には本人の自尊心や誇りがある。職員は一人ひとりの人格を尊重し言動に注意している。	入居者一人ひとりの個性をよく把握されその人に合った対応をされている。排泄時などは特に自尊心を傷つけないように細心の注意が払われている。名前の呼び方には「～さん」付けをしている。	理念にも謳われた、その人らしく生活していけるような支援をモットーにされていて入居者は自尊心を失う事のない生活をしている。この方針はこれからも堅持されて頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でさりげなく本人の希望や思いを表出し、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のその日の体調・気分などを観察しゆっくりと落ち着いた、一人ひとりの希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや・季節に合った衣類をセットし本人にさりげなく着替えてもらう。理・美容などは好みの店に通えるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態を把握しできることは手伝って頂くように務めている。	朝食は事業所で用意し配膳している。昼・夕は食材業者タイヘイが配達して事業所ではそれを温め配膳するシステムになっている。食事の時間は充分にあり、一人で食事が難しい入居者には職員がスプーンで口へ運ぶ介助を行っている。	食事時には管理者や職員と一緒に食事をするなどして楽しい時間を過ごされている。こういった支援は入居者に喜ばれるものであり常に一体感のある支援に徹して頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	一日の摂取量を個人ケースに記録し、利用者の好みにも合わせ何種類かの水分を摂取してもらうように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1/Wの訪問歯科でのケアや毎食後の口腔ケア、就寝前のケアにと個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄習慣を心がけ、自立に向けての支援を行っている。	少人数の為チェック表はないが職員は一人ひとりの排泄時を把握して時間が来たら声かけをしている。一人でトイレまで行ける人は2人いるが見守りはされている。職員は出来る限り自立への支援に心がけている。	ラジオ体操などをして体調をよくし自立排泄の方向に心がけているが、ラジオ体操にはややハードな面もあると思われ、出来ればホーム独自の無理のない運動なども考案され、試みられるようにされて欲しい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、繊維質や消化の良い食品を食べ易く、水分補給も時間毎に、散歩や買物・ラジオ体操などで体を動かしているが、駄目な時はDrに相談しながら対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく本人の希望に沿うようにしているが、その時の体調などを考慮しながらしている。	入浴は午後から行われている。殆どの方はリフト式で浴槽に入り心身を温めている。ほぼ一人につき30～40分位の時間をかけ洗髪と入浴をする。入浴を嫌がる入居者は次の日にするが職員の優しい声かけで次の日は嫌がる事はあまりない。時には入浴剤を入れて入居者に楽しんでもらっている。	入浴できない場合は清拭で清潔を保つようにされている。職員の温かい励ましが入浴への気持ちを高める事になり今後とも入居者に楽しんでもらえるような入浴支援をお願いしたい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>馴染みの寝具を使用し安眠できるようにセットする。本人の好きな時間に臥床してもらう。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人ケースに服薬中の説明書を添付し、薬の目的、用法、用量、副作用などを正しく理解し症状の変化などに対応できるように医師の指導の上で支援している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節の行事に必要な飾りつけなどを一緒にしている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩・買物・花見・祭りなど地域行事にでかけたりしている。</p>	<p>近くの公園や時にはスーパーなどにも行き食べ物を買ったりしている。寒暖の激しい日は外出を避けているが常に無理のないような散歩を心がけ時間をかけて行われている。春には桜見物などの楽しい外出も予定されている。</p>	<p>心身ともにリラックスできる散歩は入居生活にとっても好ましいものである。外出をあまり好まない入居者にも話し掛け、今まで以上の外出支援をお願いしたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個別に対応している。必要時にはホームが立替、本人に持たせて、買物の楽しみを味わってもらう。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が電話や手紙の希望があれば個別に対応し支援している。あらかじめ家族に了解済み</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の場での不快な音や光などの刺激物は取り除き全体が明るく温かみのあるように配慮している又、皆の目の付く所に自分たちで作ったカレンダーで季節がわかる。</p>	<p>入居者がリビングにいつまでいてもリラックスできるような全体に家庭的で明るいムードに包まれている。特徴的なのは理念の書かれた柔らかで大きい文字であることが温かみを感じさせた。またリビングの中央には～年～月～日という飾り文字もある。入居者にとっては楽しく居心地のよい空間である。</p>	<p>共用空間は入居者にとって長時間生活する場でもある。壁に飾られてた絵や写真は入居者の心に近親感を与えている。これからも入居者の作品なども展示されていき、常に楽しい空間を維持されて頂きたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとり用のソファや少し離れたところに2人用のソファがある。一人になりたい時や来客があった時、気が合う物同士が気楽に過ごせる居場所を作っている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今まで使っていた使い慣れた物、馴染み深い物を持ってきてもらい、安心して生活ができるように工夫している。</p>	<p>居室には各自の思い出のある家具や、テレビ、三面鏡、などが置かれて生活感が見受けられた。事業所は毎日一室掃除をするが、片付けは毎日され居室は清潔である。シーツ交換は掃除日にされ汚れた時はその都度交換する。</p>	<p>入居者にとっては我が家同然の居室。身寄りのない入居者には特に家庭的な置物などを勧めるなどして、より一層の生活感を醸し出させるような工夫と支援を期待したい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>風呂場には銭湯の暖簾をし、他の場所には分り易く大きな字で書いて貼っている。又、安全な生活を送ってもらうためにも環境整備にも気をつけている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない